

一般社団法人 きらむぎサッカーパーク（きらサパ）

地域住民や企業、ボランティアと協力して天然芝のサッカー場「きらサパ」を整備し、子どもたちの成長と地域交流を支援。大会運営やトップ選手との交流を通じて感謝と思いやりの心を育み、使用済みシューズをアフリカへ届けるなど、地域で育んだリスペクトを世界へ広げる活動を実践している。

取り組み内容

私たちは「地域で育ったリスペクトを世界へつなぐ」を理念に、スポーツを通じた人づくり・地域づくり・国際交流に取り組んでいます。

活動拠点の「きらむぎサッカーパーク（きらサパ）」は2021年、コロナ禍で子どもたちの活動場所が制限される中「安心して思い切りサッカーができる場所を地域に残したい」という想いから、自社の新工場建設予定地だった荒れ地を開拓して始めました。

活動開始時には県内サッカーチームからゴールをご寄贈いただき、クラウドファンディングで乗用芝刈り機や仮設トイレを整備。2022年には社会貢献支援財団の支援を受け、地元のサッカー少年少女やボランティアなど約100名で、プロも使用する天然芝「ティフトン」を植え付けました。2025年には地元企業から40フィートの海上コンテナ4基をご寄贈いただき、熱中症対策の休憩場所として活用しています。きらサパは、地域の皆様の「子どもたちのために」という想いが積み重なってできた場所です。

2021年から2026年6月までに120大会以上を開催し、延べ686チーム、約6,800人の子どもたちが参加。森保一監督をはじめ、Jリーガーや元日本代表選手にもご来場いただき、子どもたちが夢や人を思いやる心を育む機会となっています。

大会では、優勝チームへメロンパンで作った食べられるメダル「メロンドール」を贈呈。活動はInstagramやYouTubeで発信し、大会ごとに理事が「きらサパニュース」を発行して、子どもたちの挑戦や地域とのつながりを伝えています。

さらに、ピッチで育まれた思いやりを世界へつなぐ「くつ贈り隊」にも取り組んでいます。子どもたちや地域から集まったサッカーシューズなどをアフリカ・エスワティニへ届け、これまでの寄贈は3,439足となりました。

私たちは、単にサッカー場を運営しているのではありません。

天然芝を育て、人を育て、地域とともにリスペクトを育てています。

地域で育ったリスペクトが世界の笑顔へつながる。その循環を、これからも未来へつないでいきます。

